

于相津故其地謂相津也是以各和平所遣之國政而覆奏。

〔古事記傳二十三〕相津は和名抄に陸奥國會津阿比郡とある是なり。會津、耶麻、大治、河沼を總て大沼抄に大沼河沼は見えず桃生郡の次にある大沼は別か白河郡の處にありつるが錯ひたるか國分爲高野郡今分爲二郡とある今分より下は會津郡の處にありつるが錯ひたるか國分てと今分テと重なれることもい万葉十四十五に阿比豆禰能云々。古今六帖に心にもあらでわたりの會津川憂名を水に流しつるかな後撰集別に君をのみ信夫の里に往ものを會津の山の遙けきやなど○註さて姓氏錄難波忌に大彦命磯城瑞籬宮御宇天皇御世遣治蝦夷之時云々とある是此命の陸奥まで往し證なり。

〔會津風土記郡村〕耶麻郡 南會津也交河沼郡界日橋川西隣越後國界檜木峠高森山乾隅並越後出羽二州界飯豐山北隣出羽國界赤崩山檜原峠良隅並出羽國界中吾妻峠交信夫郡界中吾妻峠土湯峠東接安達郡界東嶽石筵峠揚枝峠巽隅連安達郡界高森山陸坂限湖水半東西七十一里餘自東沼尻峠南北三十八里餘自南鹽川至北檜原峠按倭名集有耶麻郡二焉恐重出爾而其一有津至西檜木峠南北三十八里餘部量足其一有分會津郡日量共五而無今之五莊蓋津部津郡量足日量亦錯誤爾分會津郡間不空之則會津分爲耶麻之謂也。

〔續日本後紀仁明〕承和七年三月庚辰陸奧國那磨郡大領外正八位上勳八等丈部人麿戸一烟賜姓上毛野陸奥公

磐瀬郡

耶麻郡

〔續日本紀元正〕養老二年五月乙未割白河石背會津安積信夫五郡○並陸置石背國

〔續日本紀二十九稱德〕神護景雲三年三月辛巳陸奧國○中標葉郡人正六位上丈部賀例努等十人賜姓阿倍陸奥臣○中磐瀬郡人外正六位上吉禰侯人上磐瀬朝臣

〔吾妻鏡二十一〕建暦三年○建保元年三月十七日戊午和田平太胤長配流陸奧國岩瀬郡云云

〔郡名考〕陸奥 安稜アサミ 安積アサカ

安積郡

〔地名字音轉用例〕入聲クノ韻ヲ同行ノ音ニ通用シタル例